

## 中種子町 <sup>あさひまち</sup> 旭町老人クラブ

熊毛郡中種子町野間 7053

発表者：寺 田 寅三郎

みなさんこんにちは。私は種子島からやって来ました。

熊毛郡中種子町野間旭町老人クラブの寺田です。老人クラブの会員は59名で男子20名、女子39名です。後期高齢者34名で60・70歳代の加入に心掛けていますが、後継者がいないせいで家業に専念、入会できないようです。



まず、種子島を紹介させていただきます。種子島は大隅半島の南約36キロに位置し、北端から南端まで84キロで細長い島です。中種子町は島の中央部で平坦な地形です。中央線に立つと、太平洋・東シナ海が望め、爽やかな潮風が心地よいです。中種子町は純農村で、産物はサトウキビとからいもです。交通機関は空と海があります。鹿児島空港より35分、鹿児島港より高速船で95分、大変便利になりました。

文化的には種子島家の影響を受け、京都、大阪の芸能・言語・宗教など文化交流の跡がみられます。町内にも県の無形文化財指定を含む多くの大踊りがありましたが、後継者がいなくて伝えることができない集落もあります。

町老人会長の音頭で、50年くらい前まで各集落で披露されていた「中踊りヤーアットセイ」



という踊りを老人会で立ち上げ、50数年前を思い出しながら練習に励み、9月2日の県老人クラブ大会で披露しました。大変好評で多くの拍手をいただきました。ちなみに、踊り子の平均年齢は76歳でした、昔のよかよめじょうですね。言葉は申し言葉

で県内の地方の言葉とは異なります。語尾に「申す」が付きますので、例えば「こんにちは」は「今日はめっかり申さん」、「どこに行かれますか」は「どけおじゃり申すか」ですね。これは私たちの小さい頃からの言葉で、最近はなくなりまして標準語になってしまいました。

クラブ活動は、中種子老人クラブ会長の松下さんの助言で、でき得ることから始めていま

### 老人クラブ役員料理教室



す。県や町の行事への参加協力、近隣福祉ネットワークによる声かけ運動、集落周辺の美化作業、子どもたちとのふれ合いなど年中行事です。

県連合会等の文書には、健康老人のことが記されています。健康は栄養、運動、休養が原則のようです。町連合会では全会員複数集落別に集まり、年間2回の昼食会が行われます。清掃作業の後、ゲートボールで腹をすかして昼食は大変おいしいです。まず、栄養士の材料・カロリーなどの食生活改善の説明を受けてから食べます。新しい友達、ふれあい、親しみ、楽しい1日でした。

また、毎年行われる料理教室は、男性主体となっていますが、実際は半数が女性です。毎年教室に来る男性の言葉です。妻が病気で寝込んででも自分で料理して食べさせるそうです。

子どもたちとのふれ合いでは、一緒に黒砂糖作りをしました。サトウキビから黒糖になるまでの工程を教え、実際に子どもたちと一緒に（熱湯なので危ないので注意しながら）作り上げ、飴・砂糖になると冷やして、鍋の周囲に集まりにこにこしながら手にする姿が思い出されます。



運動の面では、中種子町は運動施設に大変恵まれており、「中種子よいらーいきスポーツクラブ」が結成され、65歳以上は年会費1,000円で全てのスポーツに参加できます。種目

## ✿ 活動事例（中種子町 旭町老人クラブ） ✿

は老人向きでグラウンドゴルフ、テニス、バドミントン、ゲートボール、バレーボール、卓球と色んなスポーツにチャレンジできます。町老人クラブ主催のゲートボール、グラウンド・ゴルフ大会は年2回行われます。ゲートボールは60チーム前後集まり、笑いと声援のなか楽しい1日を過ごします。近隣の西之表市・南種子町との交流も深く、10月には種子島老人スポーツ大会が行われました。

南日本新聞の論点の欄に「高齢期を老人と捉える発想」という片桐資津子先生の記事が掲載され、最後に「高齢者は喪失を補完する時期ではない。養生しながら真の楽しみを発見する時期である」と教えられました。役場に行き中種子町の現状を聞くと、中種子町の人口8,830人のうち高齢者3,026人、率にして34.2パーセントが老人です。1.9人で1人の高齢者を見ることになります。うち、後期高齢者1,790人、過疎・高齢化の兆しも明らかです。

後期高齢者の医療費は、町内で年間15億円、1人当たり66万4千円で、個人の窓口支払い7万7千円、月平均6,416円です。皆様の資料の中にA3版の大きな紙があると思います。これは後期高齢者の医療費ですが、左端が市町村名で、一番上の行に1人当たりの診療費がありますので、その下の行を下ってご自分の市町村の欄を見てください。実際には左下の6行目に「院外処方による…は含まない」とありますので、この額を含めるとまた大変な額になると思います。参考までにお持ち帰りください。

鹿児島県の1人当たり後期高齢者医療費をみると、97万9千円で全国平均で7番目に高い医療費です。この表の1番上の行の1人あたりの診療費82万5千円の説明にありました院外処方等の額を加えるとこの数字になる訳です。県全体の医療費は、2581億8749万5447円と大変な金額ですね。県内では、脳血管疾患死亡率が九州で1番高いようです。県でも生活習慣病対策プロジェクト実施要綱の策定を急ぎ、健康な地域づくりを推進するようです。このような資料を我々町の老人あたりまで下ろしていただければ運動もし易いと思います。関係者の方々よろ



しく願います。役場の係の方の話では、医療費の窓口支払いを毎月600円減らしていただければ、年間で1億9千万円の節約になるそうです。

私ごとで恐縮ですが、昨年、前立腺癌で放射線治療をしました。60万円位の費用が掛かるといわれましたが、退院の際、支払いの窓口に行くと5万8千円で残りは保険から引かせていただきますとのこと、保険の有り難さをしみじみ感じました。

先日テレビで、国の医療保険が毎年1兆円規模で増えていることを知りました。今、日本は東日本大震災、放射能汚染と大変な被害を受けています。全国民が国を挙げて支援しなければ復興はできないといわれています。私たち老人は、戦後の悲惨な時代を生きぬいた知恵と体験があります。国の現状を知り、健康老人として精進しなければならないと思います。私ども老人ができることは、健康に留意し医療費を少しでも削減することで、国や県への協力になると思います。その為には健康で自立の精神を養い、社会に奉仕することが老人の自立につながると思います。

旭町老人クラブでは食生活の改善、運動、休養を再度見直し、毎年行われる特定検診を積極的に受診して健康管理に努め、生活習慣病の軽減を図っております。このことは医療窓口での支払いを少しでも節約することになり、国や県への支えとなり、更に住みよい社会がつかれると思います。



これはインターネットで厚生労働省から取った資料ですが、都道府県別診療種別1人当たり実績医療費の表です。これによりますと、鹿児島県は979万円で上位から7位のように。あまりよい成績ではないですね。そして、先程昨年より1億円増えたと申しましたが、実際には21年度の国の医療費が27兆6千億円で、22年度は28兆7千億円ですので1兆1千億円増えたこととなります。これがずっと増えていくことになると大変なことになりますね。老人の皆さん、健康に十分注意して少しでも医療費を安くしていただければ、国や県の助けになると先程申し上げましたが、これが証明すると思います。

本日は、私の拙い発表を聞いていただきありがとうございました。終わります。